

木のグランドフェアについて 企業支援部 技術支援グループ 進藤秀典

「木のグランドフェア」は、「木になるフェスティバル」，「木工作ひろば」，「全道こども木工作品コンクール展」の3つの行事の総称です。

■第25回木になるフェスティバル

「木になるフェスティバル」は、平成4年に行われた「日本の木のおもちゃ&木の遊具展」(写真1)を起源として、木材産業の集積地である旭川を象徴する行事に成長しました。

7月23日に実施した「木になるフェスティバル」は、林産試験場の行っている業務に対する道民の理解を得る機会として実施しています(写真2)。今年度は、研究3部(性能部，利用部，利用部)による10の催事のほか、試験後の端材などを再利用して参加した子どもたちが創造力を働かせて好きなものを作る「自由工作コーナー」(写真3)，保育園へ本物の木のクリスマスツリーのプレゼントなどの活動を行っている「『木のまちあさひかわ』木育をすすめる会」の活動報告，林産試験場の研究成果を木材業界へ普及している一般社団法人北海道林産技術普及協会による「オリジナル工作キット等の販売」など、木を題材に様々な催事が行われました。また、催事会場を巡ってスタンプをあつめるスタンプラリーの記念品には、林産試験場で開発した木工旋盤を用いて作った「きのこストラップ」を用意したところ、10時の開場前から多くの来場者がありました。

今年は、640名の方がご来場され、「木になるフェスティバル」を満喫していただきました。



写真1 木のおもちゃ遊具展



写真2 開会式



写真3 自由工作コーナー

・林産試験場が行った催事についての紹介

- (1) 道産針葉樹材の内装材について参加者の嗜好を調査する「木の内装 どう思う？」
- (2) 間伐材で箸を作る「間伐材で工作」
- (3) 木の種類による違いを体感してもらう「この木なんの木&輪ゴムてっぽう」
- (4) きのこの収穫ときのこの旨味を体感してもらう「きのこを収穫してみよう！」(写真4)
- (5) バイオマス燃料への理解を目的とした「熱いぜ！バイオマス」

- (6) 普段目にする事ののない丸太を単板に剥く工程を紹介する「合板ができるまで」(写真5)
- (7) 単板に絵を描いて木を親しむ「オリジナルしおりを作ろう」
- (8) 木材の性質を解説する「性格占い?さて、まっすぐ割れるかな!?(写真6)」
- (9) 木材を立体的に加工する木工旋盤を紹介する「木材の3D加工」
- (10) 針葉樹材を押しつぶす圧密実演を行う「木をつぶしたら・・・」
- (11) 毎年大人気の「木っ端であそぼう～自由工作コーナー～」
- (12) 市内在住の木工愛好家の協力を得て行う「羽根をつけたら竹とんぼ」
- (13) 林産試験場内の見学ツアー「りんさんしめぐり」

来場者の方が、これらの体験や展示を通じて、木を楽しみ、親しんでいただきたと考えて行いましたが、来場者アンケートにおいても「楽しいイベントであり、来年も来場したい」など概ね好評でした。

・運営の工夫

「エコ」の観点から、来場者に対し「ゴミの持ち

帰り」をお願いしたところ、協力を得ることができ、大変スムーズに運営することができました。

また、フェスティバルの周知に大きな役割を發揮するチラシの配布は、例年どおり市内及び近隣の小学生全員に行き渡るように配布しました。今年は新機軸として6月に行われた「木育フェスタ(東川町)」と「モクモクフェスタ(旭川市)」の会場に「木になるフェスティバル」のポスターを展示させていただき、開催を案内しました。関係者の方々、ありがとうございました。



写真5 合板ができるまで



写真4 きのこ収穫



写真6 まっすぐ割れるかな

■木工作ひろば

8月7日に実施した「木工作ひろば」は、木工作を
行いたい親子を対象に林産技術普及協会が中心と
なっていました。今年は20組の親子が腕を振るい
ました。ノコギリやカナヅチには不慣れなお母さん
も木工マイスターのサポートを受け、お母さんが
座っても壊れないイスや学習が習慣となることを
願った机など、親子の愛情の深さが感じられるほの
ぼのとした催しとなりました。

■第24回北海道こども木工作品コンクール展

24回目となる北海道こども木工作品コンクール展
は、全道の20の小中学校から322の作品が集まり、9
月10日から10月2日まで、林産試験場の構内にある木
と暮らしの情報館で開催しました。

作品は、1. 木工工作個人の部 造形的作品部門、2.
木工工作個人の部 実用的作品部門、3. 木工工作団体
の部、4. レリーフ作品の部の4部門で審査が行われ、
それぞれ最優秀賞（知事賞）、優勝賞、特別賞が選
ばれました。

各部門毎の入賞状況は次のようになっています。

・木工工作個人の部 造形的作品部門

最優秀賞は、中標津町立中標津東小学校3年の高崎
健太郎さんが製作した「けんたろうハウス」です
（写真7）。審査員からは、「まとまりあるイメージ、
工作精度が高い」、「3年生ながらダイナミック」、
「構構力、バランスに優れ、曲がった流木の素材を
活かしている」と評価されました。

優秀賞1点目は、旭川市立神居東小学校3年の多田
匠冴さんの「いかくカマキリ」で、「細かい枝をバ
ランス良く配置している」、「枝の曲がりか虫の特
徴と合致している」ことが評価されました。

優秀賞2点目は、当麻町立当麻中学校2年林港人さ
んの「映えて」です。当麻中学校からはこの作品を
含めて12の象嵌（ぞうがん）作品が出展されまし
たが、「黒を基調として、色を一番使用している」と
色の使い方を評価されました。

特別賞は4点で次のとおりです。

- ・旭川市立神楽小学校3年安藤柚季さんの「リスの家族の木のお家」
- ・北見市立小泉小学校2年佐竹隼正さんの「たのしい
どうぶつえん」
- ・中標津町立中標津東小学校2年西村充貴さんの「き
らきらガラス玉」

- ・中標津町立中標津東小学校6年宮田翼さんの「スピ
ノザウルス」

・木工工作個人の部 実用的作品部門

最優秀賞は、中標津町立中標津東小学校1年中川結
咲さんが製作した「万年カレンダー」です（写真8）。
審査員からは、「1月から12月までのカレンダー機能
を果たす作品を小学校1年生が考えたことが凄い」、
「いろいろな木を使って、木の色がたくさんあるの



写真7 けんたろうハウス



写真8 万年カレンダー

がおしゃれでセンスが良い」と評価されました。

優秀賞1点目は、札幌市立屯田中央中学校3年加賀谷優心さんの「花のうつわ」で、「実物をおくことができる3つの器の組合せがおしゃれ」、「作品作りに対する根気と実用的な構造の両方を備えている」ことが評価されました。

優秀賞2点目は、旭川市立忠和小学校4年小野寺美空さんの「本立て」で、「きちんと作られている」、「強度がしっかりしており、実用的だ」と評価されました。

特別賞は3点で次のとおりです。

- ・中標津町立中標津小学校5年中谷大輔さんの「ピリヤード」
- ・旭川市立共栄小学校4年野島陽依さんの「森のたまご」
- ・東川町立東川第二小学校3年藤原隆世さんの「手づくりえん筆」

・木工工作団体の部

最優秀賞は、滝上町立濁川小学校1年生から5年生までの全員13名で制作した「ザ☆秘密基地～ツリーハウス～」が選ばれました（写真9）。審査員からは、「子どもたちの自由さ」、「みんなで作っている楽しさ」、「細かなカンナくずまでしっかり使っている」と評価されました。

優秀賞は、当麻町立当麻中学校美術部の皆さんが製作した「集うⅧ～シマエナガの森～」です。審査員からは「パーツ1つ1つの精度が高い」、「高い技術力が感じられる」と評価されました。

・レリーフ作品の部

最優秀賞は、枝幸町立枝幸中学校2年小田桐実夢さんの「一つの花」です（写真10）。審査員からは「シンプルで仕上がりが綺麗」、「構図が良く、花びらの彫り込みが計算されている」、「花の瑞々しさが表現されている」と評価されました。

優秀賞1点目は、当麻町立当麻中学校2年林港人さんの「残暑」で、「台まで削るダイナミックさ」、「描写力がグンを抜いている」と評価されました。

優秀賞2点目は、当麻町立当麻中学校2年坂本夢さんの「波紋」で、「動きのダイナミックさ」、「流動感のある赤い色の使い方」が評価されました。

特別賞は4点で次のとおりです。

- ・枝幸町立枝幸中学校2年鈴木茉莉さんの「迷路」
- ・枝幸町立枝幸中学校2年斎藤穂乃香さんの「花び

ら」

- ・当麻町立当麻中学校2年大久保翼さんの「巣」
- ・上ノ国町立上ノ国中学校2年小山内花穂さんの「道」

優秀賞、特別賞の写真は次のURLからご覧いただけます

<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fpri/event/grand/mokko/h28kekka.htm>

以上、今年の「木のグランドフェア」を紹介しました。「木のグランドフェア」は25年目を迎え、カラマツでいうと直径18cmぐらいに成長し、林産試験場近年の大ヒットナンバー「カラマツコアドライ」を採材できる太さになりました。今後も創意工夫しながら、カラマツから四方無節が採れるように、「木のグランドフェア」を育てていきたいと思いません。



写真9 ザ☆秘密基地～ツリーハウス～



写真10 一つの花